

## 我ら 50 期 ここにあり

### 主体変容 ～経営の神様の言葉～

主体変容とは「経営の神様」と呼ばれたパナソニックの創業者、松下幸之助さんが使われた言葉だと言われていますが、自分に気付いて自分を変えることによって相手を変えるという意味です。要するに相手を変えようとするのではなく、自分を変える。自分を変えることによって相手も変わっていく究極の真理です。主体変容とは、自分が変わらないと状況は何ひとつ変わらないということです。変わらないのは、環境や周囲のせいにはしているからなのであって、意識を相手や周囲ではなく、「自分」に向けて自分で自らを変えていくなど、自分に問いかけて改善していくことが重要になります。

### なぜ主体変容なのか ～言葉の意味を噛みしめる～

なぜ「主体変容」なのか。同じような意味を持つ「変化」ではダメなのか。辞書を調べたり用法を調べたりして言葉の意味を噛みしめてみる。  
～「変容」：内面が変わった結果、外に変化が現れること。全体の様子がすっかり変わること。「変化」：時間や空間の推移によって、それまでとは違う状態や性質になること。外面的な姿形が変わること。～そこで合点がいく。そうか、だから主体「変容」なのだ。主体「変化」では物足りない。自分が変わることは、内面から変わることであり、新しい自分になるぐらいのつもりで生きる姿勢のことなのだ。だから主体変容なのだ。そして考える。主体変容とは自分をすっかり変えてしまうこと。そこでまた、立ち止まる。それは、自己「改革」なのか？それとも自己「変革」なのか？～「改革」：古くなった制度などを新しいものに改めること。もとあるものを変えること。「変革」：根本から大きく変わること。すっかり変えてしまうこと。～そこでまた気づく。そうか目指すところは、「自己変革」であり、「行動変革」だ。今している行動をすっかり変える、それは自分の内面を変えるからこそできることである。その覚悟がなければ主体変容は生まれない。

### 言葉に血が通い出すとき ～言葉の本来の意味～

「言葉」について普段から意識をしていますか？あなたが普段何気なく使う「言葉」を見つめなおしてみると変革が起きるかもしれません。

言葉の意味というのは、時代によって変わっていくものらしい。例えば、「やばい」という言葉。私にとっての「やばい」は「よろしくない」「むしろピンチだ」という意味合いだが、若い人は、何かとても美味しいものを食べた時に「やばいくらい美味しい」と言ったり、とてもかっこいいものを目にしたときに「やばいな」と言ったりもする。よく新聞でも取り上げられるのは、「全然」「全く」という言葉である。学校では「全然～ない」「全く～しない」と後ろに否定語をつけて使う言葉である。と習った記憶がある。全然、雨が降らない。全く知らない。などだ。しかし最近は「全然大丈夫です」「全くOKです」などの使い方を耳にすることが増えた。国語的には不適切とされているそうであるが、所詮「口語」は生き物であり、今後も本来の意味とは違った意味を持つ言葉が生まれることだろう。言葉は確かに生き物であるが、その言葉が本来の意味を持つに至ったプロセスには、その言葉の本質が込められているはずである。特に日本語は、漢字を使う。漢字には一つ一つに意味があり、漢字の意味を考えれば、熟語の意味も分かる。私は人前でお話をさせて頂いたり、こうして文字を通して何かを伝える機会が多いので、言葉の持つ「本来の意味」に着目することに、定期的に取り組んでいる。「自分にとってすっかり当たり前」であるとか、「何気なく日常的に使っている」などの言葉に対してこそ、本来の意味に立ち返ることを重要視している。例えば、「目的」と「目標」。目的は「的(まと)」であり、目標は「標(しるべ)」。また、目的は方向で、目標はそこまでの距離である。遠くの目的を見据えながら、その道のりにあるチェックポイント(目標)をひとつずつクリアしていく。という具合だ。言葉は偉大である。

目にしたり口にただけで、元気が出る。勇気がわく。一方で、マイナスの言葉というものもあり、口にしたり目にしたり耳にしたりするだけで、気が滅入ったり元気がなくなったりということもある。言葉には言霊が宿る。普段、何気なく使っている言葉を見直し、本質を捉え、その上で、自分の体験、過去、目指す未来に照らし合わせて使う。そうすることで、その言葉には血が通い出す。それは、言葉にあなたの血が通うという意味である。